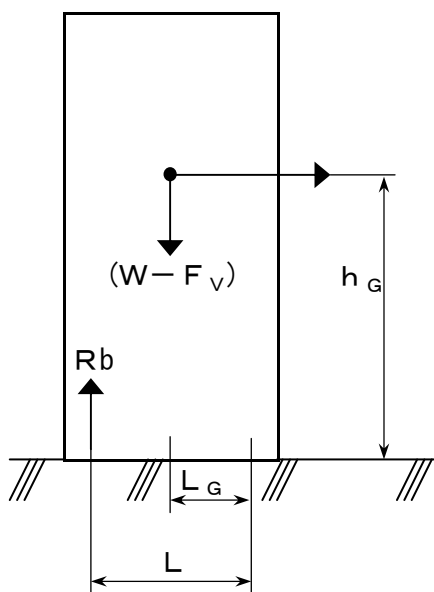


**移動式粉末消火設備 (YDA-75CAJII)**  
**アンカーボルト耐震計算書**



- G : 機器重心位置
- W : 機器質量
- $R_b$  : アンカーボルト1本あたりの引抜力
- $n_t$  : 引張を受ける片側のアンカーボルト総本数
- $h_G$  : 据付面より機器重心までの高さ
- L : 短辺方向のアンカーボルトスパン
- $L_G$  : ボルト中心から機器重心までの距離
  
- $F_H$  : 設計用水平地震力
- $F_V$  : 設計用鉛直地震力

YDA-75CAJII  
正面図 (短辺方向)

**1. 地震入力**

設計用水平地震力の作用点は重心とする。

地域係数 Z : 1.0

設計用標準震度  $K_S$  : 2.0 とする (建築設備耐震設計・施工指針2005年による)

$$F_H = K_H \cdot W$$

$$K_H = Z \cdot K_S$$

$$F_V = K_V \cdot W$$

$$K_V = 1/2 K_H$$

$$K_H : \text{設計用水平震度} \dots\dots\dots Z \cdot K_S = 2.0$$

$$W : \text{機器質量} \dots\dots\dots 80 \text{ kg} = 0.785 \text{ kN}$$

$F_V$  : 設計用鉛直地震力

$K_V$  : 設計用鉛直震度

$$F_H = K_H \cdot W = 2.0 \times 0.785 = 1.569$$

$$F_V = K_V \cdot W = 1/2 \cdot K_H \cdot W = 1/2 \times 2.0 \times 0.785 = 0.785$$

∴ 設計用鉛直地震力 ( $F_H$ ) = 1.569 kN

設計用鉛直地震力 ( $F_V$ ) = 0.785 kN

## 2. アンカーボルトの引抜力

W	:	80	kg	=	0.785	kN
L	:	24	cm			
$h_G$	:	64.25	cm			
$L_G$	:	12	cm			
n	:	4	本			
$n_t$	:	2	本			
$F_H$	:	1.569	kN			
$F_V$	:	0.785	kN			

$$R_b = \frac{F_H \cdot h_G - (W - F_V) L_G}{L \cdot n_t}$$

$$R_b = \frac{1.569 \times 64.25 - (0.785 - 0.785) \times 12}{24 \times 2} = 2.100 \text{ kN}$$

∴ アンカーボルト 1 本の引抜力は 2.100 kN

## 3. アンカーボルトのせん断力

Q : アンカーボルト 1 本に作用するせん断力

$$Q = \frac{F_H}{n}$$

$$Q = \frac{1.569}{4} = 0.392 \text{ kN}$$

∴ アンカーボルト 1 本に作用するせん断力は 0.392 kN

∴ アンカーボルトの引抜力、せん断力よりアンカーボルトのサイズは以下とする。

- ・ あと施工接着系アンカー : M10以上
- ・ あと施工金属拡張アンカー : M8以上

(図 1～4 及び表 1～2 を参照のこと。施工は図 1～2 による。)

#### 4. アンカーボルトの選定（床・基礎据付）

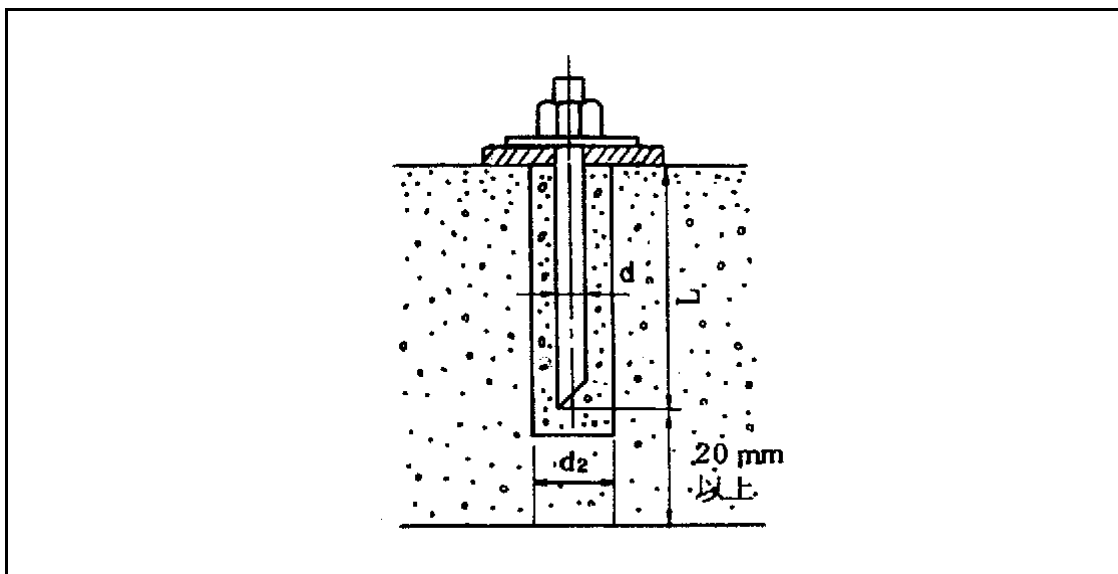


図 1. あと施工接着系アンカーボルト

表 1. 短期許容引抜荷重 (kN)

ボルト径 d (呼称)	コンクリート厚さ (mm)				埋込長さ L (mm)	穿孔径 d <sub>2</sub> (mm)
	120	150	180	200		
M 1 0	7.60	7.60	7.60	7.60	80	13.5
M 1 2	9.20	9.20	9.20	9.20	90	14.5
ボルトの埋込長さ (L)の限度 (mm)	100	130	160	180		

- 注 1. 上図において、上表の埋込長さ及び穿孔径の接着系アンカーボルトが埋込まれたときの短期許容引抜荷重である。
2. コンクリートの設計基準強度  $F_c$  は、 $1.8 \text{ kN/cm}^2$  ( $18 \text{ N/mm}^2$ ) としている。
3. 各寸法が上図と異なる時、あるいはコンクリートの設計基準強度が異なる時などは、別途堅固な基礎の計算によるものとする。ただし、床スラブ上面に設けられるアンカーボルトは1本当たり、 $9.20 \text{ kN}$ を越す引抜荷重は負担できないものとする。
4.  $L \geq 6d$ とすることが望ましく、上表の一印部分は、使用しないことが望ましい。
5. 第一種、第二種軽量コンクリートが使用される場合は、1割程度裕度ある選定を行うこと。

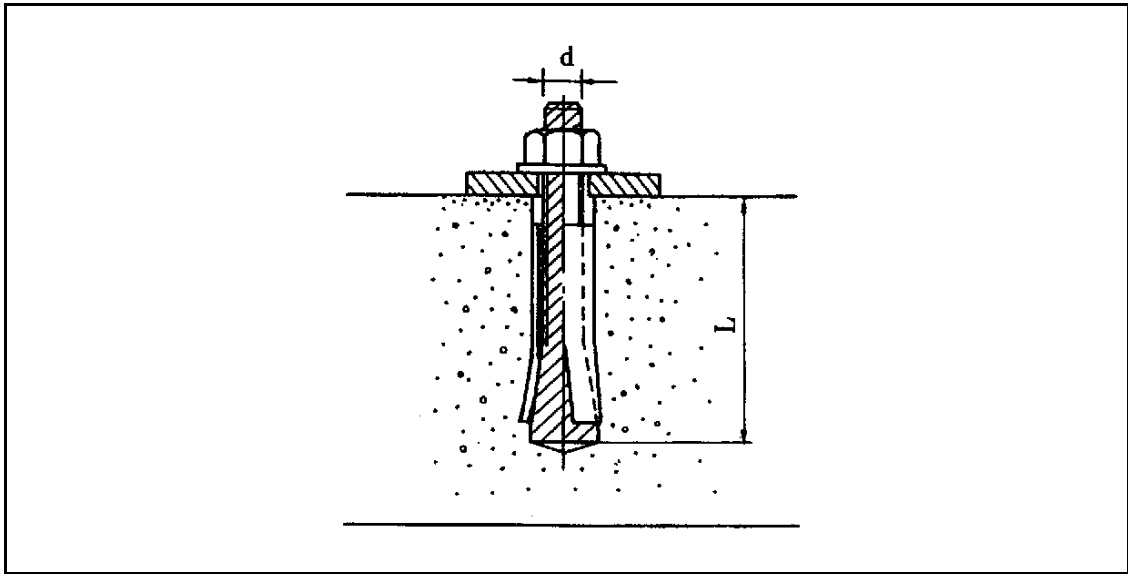


図 2. あと施工金属拡張アンカーボルト

表 2. 短期許容引抜荷重 (kN)

ボルト径 d (呼称)	コンクリート厚さ (mm)				埋込長さ L (mm)
	120	150	180	200	
M 8	3.00	3.00	3.00	3.00	40
M 1 0	3.80	3.80	3.80	3.80	45
M 1 2	6.70	6.70	6.70	6.70	60
ボルトの埋込長さ (L)の限度 (mm)	100以下	120以下	160以下	180	

- 注 1. 上図において、上表の埋込長さのアンカーボルトが埋込まれたときの短期許容引抜荷重である。
2. コンクリートの設計基準強度  $F_c$  は、 $1.8 \text{ kN/cm}^2$  ( $1.8 \text{ N/mm}^2$ ) としている。
3. 各寸法が上図と異なる時、あるいはコンクリートの設計基準強度が異なる時などは、別途堅固な基礎の計算によるものとする。ただし、床スラブ上面に設けられるアンカーボルトは1本当たり、 $6.70 \text{ kN}$ を越す引抜荷重は負担できないものとする。
4. 埋込長さが右欄以下のものは使用しないことが望ましい。
5. 第一種、第二種軽量コンクリートが使用される場合は、1割程度裕度ある選定を行うこと。

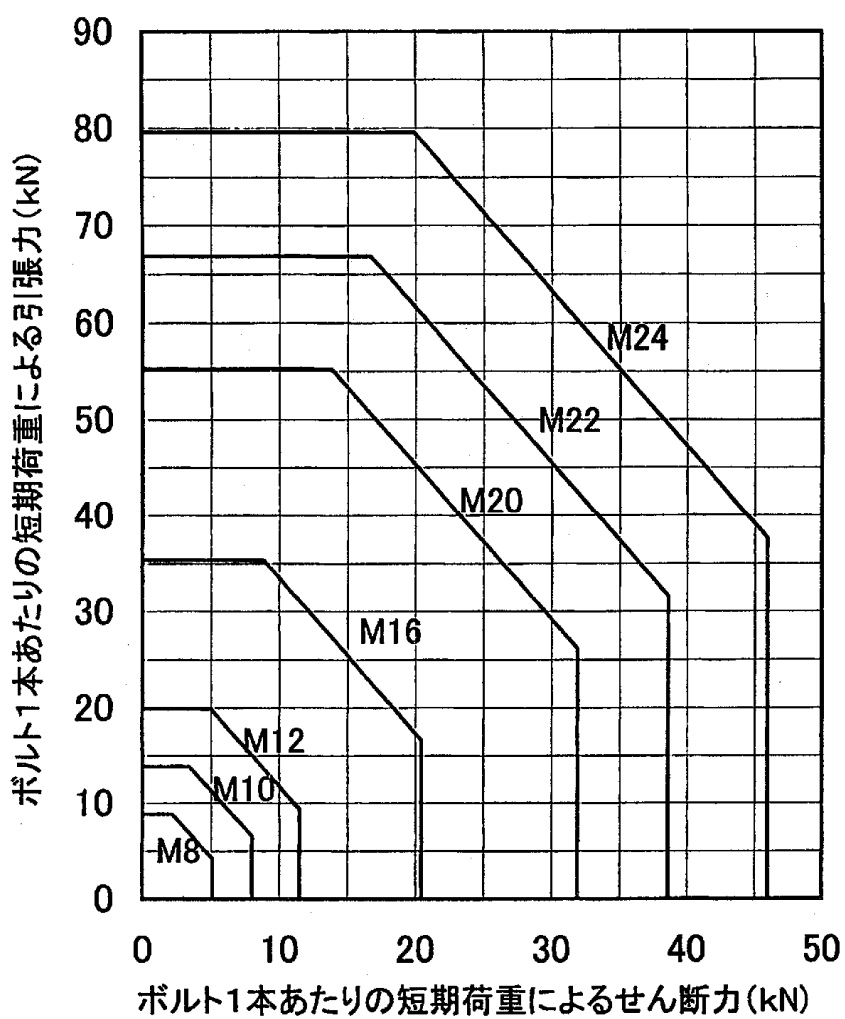


図3. ボルト (SS400) 許容応力度図

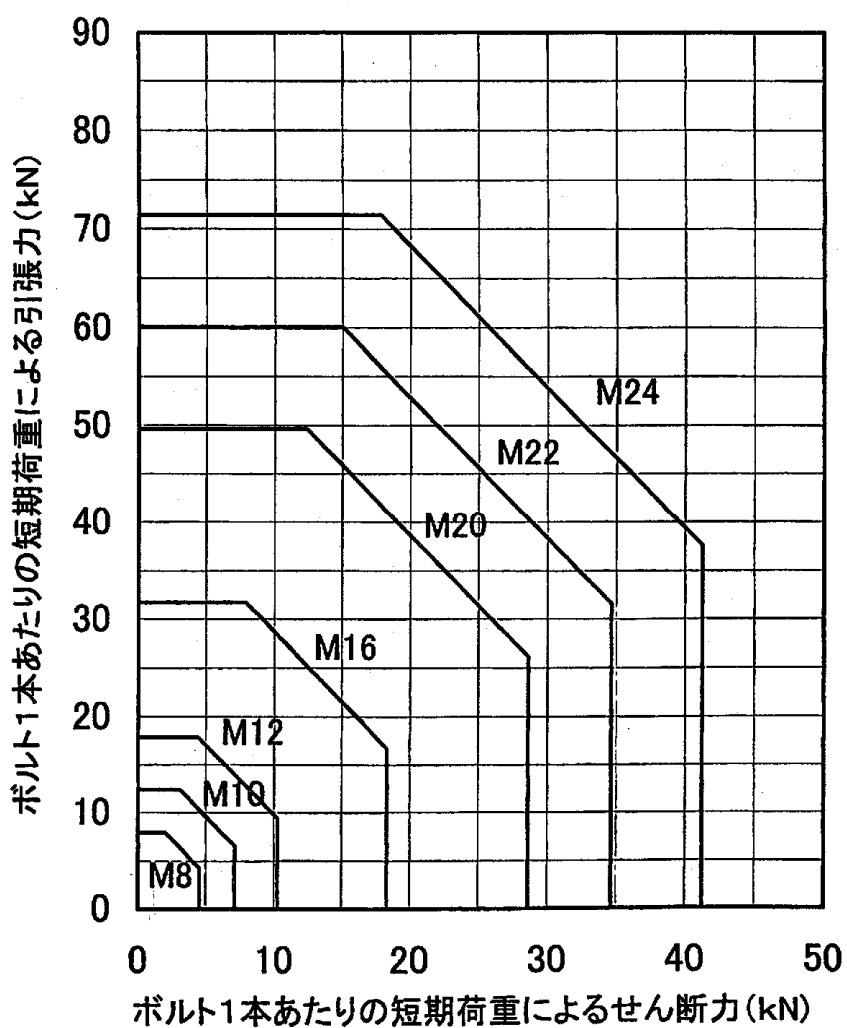


図4. ステンレスボルト (A2-50) 許容応力度図